

Japanese Association of Veterinary Anatomists

News letter

Series 2 Number 2

Sept. 1993

第116回日本獣医学会 (山口大学) (宇部空港または新幹線小郡駅)

10月5日~10月7日 ☆一般演題531題 ☆解剖学分科会62題 ☆シンポジウム7題

家畜解剖学分科会の演題発表申込は62題になった。従来の形式による地方での学会としては最終回になるので、散ってボスター形式、シンポジウム形式はさけることにした。ただプロジェクターは解剖分科会会場では2台用意するので見ごたえのあるスライドが多数示されるように期待している。教育シンポジウムはこれらのプログラムの間にはさみこむ形で形で次のように5日の午後に行われる。

解剖学分科会シンポジウム

我が国の獣医学における

解剖学教育の現状と課題

10月5日 畑くぬ 藤三穂

前回の獣医学会では「諸外国から何を学ぶか」と題して杉村先生に座長をお願いして分科会シンポジウムを行ったが次は我が国の現状についてアンケート調査をしようという提案が出て、山野先生が精力的に各大学と連絡しアンケートの他各大学の便覧などの資料を集められたので今回はそれを基調報告とし、その他にシラバスの完成な

と自己点検評価の進められている。所は会場案内図(講演要旨集の帯広犬(山田純三)と日大(月瀬 頁)にある。本体は垂直磁場方式(東)・ユニークなカリキュラムを永久磁石(0.2テスラ)による人体行つておられる北里大(和栗秀一)とラテ

ン語教育に熱心な鹿野胖先生(麻布大)に報告していた。最後にデパートメント制について林真博先生の意見をきかせていた。ご

一般講演数

I. 解剖学分科会	62題
II. 生理学・薬理学分科会	88題
III. 病理学分科会	73題
IV. 寄生虫学分科会	42題
V. 微生物学分科会 (示説29題)	122題
VI. 家畜疾病学分科会	9題
VII. 公衆衛生学分科会	26題
VIII. 臨床繁殖分科会	30題
IX. 臨床分科会	79題



用のものであるが、新素材による大動物用のステージが開発された。(左写真)

MRI装置 (価MRP20) 山大家畜病院で公開

国際獣医研修制度発足に伴う日本獣医師会からの貸しによるMRI装置が山口大学の家畜病院に設置されたので、今学会中は会員に一般公開されることになった。場

解剖分科会懇親会の御案内

日時：十月六日

場所：湯田温泉かめ福旅館 (下欄地図参照)

東京圏以外で開催される獣医学会の際に家畜解剖分科会では懇親会を開くことが多いので、そのことに賛否両論があるものの今回も

会場かめ福の地図



一般公開の特別講演

10月6日 畑くぬ

山口市民会館にて

直木賞作家古川薫氏(下欄)による「長州捕鯨史に見る動物愛」の話は山口県の日海側の仙崎湾に面した通(かよい)浦にある鯨幕や向岸寺にある鯨の過去帳などに触れ、近代捕鯨の発祥地の一つである一方、漁民が丁重に胎児を葬ったことを明らかにする。市民

山口大学が当番校になって開催されることになった。牛飲馬食といわれないように、アルコールに弱い会員や、ヤンクな会員にも納得されるような雰囲気で行う予定である。

九月十日現在の御申込は81名(うち女性9名)となっているが、かめ福、ホテルニュータナカともに若干の余裕があるので追加申込も可能。



への一般公開の講演会は岐阜大学における第12回獣医学学会の際にC・W・ニコル氏らの講演が行われたのが最初であったと思われるが、今回の古川薫氏の語り口はどのようなものが期待される。会場は市民会館は山科大学からまず9号線(小郡駅から山科駅)に通じて右折して2kmほど行くとザビエル聖堂に向う四辻に来るので、この交差点の左前方にある。専用バスが大学構内から当日16時45分頃に出るが市内のホテルなどからだと市バス、タクシーでも10、15分で行くことができる。いずれも講演要旨の8頁に案内図が示されている。

因みに萩や長門に足をのばす計画のある方は、仙崎行のバス(青海島行)で話の中に出る鯨墓などを訪れることもできる。この鯨墓や鯨の過去帳のある向岸寺は青海島の奥の通(かよい)浦にあり、駅前(JR仙崎駅)や駐車場などにある大きい鯨のモニュメントと共に、鯨まつりで古式捕鯨を演じてみせるこの土地の雰囲気が肌で感じられる。

第25回世界獣医学大会(WVC) 解剖セクション準備中 シンポジウムのタイトル内定

Anatomy of Wildlife

前号で紹介したように一九九五年にはWVAと小動物のWSAVAの合同による世界獣医学大会(WORLD VETERINARY CONGRESS)が横浜でひらかれる。これにはWVAも構成員として参加している。解剖のセクションについてはJAVVAがホスト機関ということになる。従って自由演題、ポスターセッション、WVAの会合、夕食会、などをJAVVAがお世話するよう要請されている。

更にシンポジウムを解剖が受持つことを想定して、そのタイトルについて分科会会員の方々の意見をお聞きして、前号にその例を5件示したところ、WVAのSecretaryは財政的援助がなければ、という消極的な反応が示され、セクレタリーのStromberg教授からも大会事務局の方へ、WVAとして予定していないと連絡が来た。西田隆雄副会長も、これまでのモントリオールで

1995 WVC全体スケジュール(案)

	9月3日(日)	9月4日(月)	9月5日(火)	9月6日(水)	9月7日(木)	9月8日(金)	9月9日(土)
1 開会式	(evening)						
2 プレナリーセッション		(15:40-18:00)	(15:40-18:00)	(15:40-18:00)		(15:40-18:00)	
3 シンポジウム		(9:00-15:30)	(9:00-15:30)	(9:00-15:30)	(9:00-17:00)	(9:00-15:30)	(9:00-11:00)
4 自由演題		(9:00-15:30)	(9:00-17:00)	(9:00-15:30)	(9:00-17:00)	(9:00-15:30)	(9:00-11:00)
5 ホスターセッション		(14:00-17:00)	(9:00-17:00)	(9:00-17:00)	(9:30-17:00)	(9:00-17:00)	
6 ビデオライブラリー		(14:00-17:00)	(9:00-17:00)	(9:00-17:00)	(9:00-17:00)	(9:00-17:00)	
7 商業展示		(12:00-17:00)	(10:00-17:00)	(10:00-17:00)	(10:00-17:00)	(10:00-13:00)	
8 閉会式							

の解剖の参加状況などから判断すると、自前でシンポジウムを組織するのは無理ではないかという判断が示された。

WVAがやる気がないのにJAVVAが無理をすることもないと考えることもできるが折角の機会を生かしてと思える。

ただ数人の演者で半日程度のミニシンポジウムを開くことが本当に出来ないかと考えなおすことにして、数人の想定演者に打診してみたところやっやれないことはないという手覚えがあった。そこで7月にSack教授と交信を再開し、日本側がやってくれぬならぜひ組織してほしいという返事が会長から得られたので上記のように「野生動物の解剖」をテーマにミニシンポジウムを企画することにした。

なお参考までにWVCの日程表の概略を上に表示。会員各位の積極的な御支援をお願いしたい。

た新しい評議員数は70名で、その互選による新しい理事は4名となる。ただ選出方法はそのモデルが提案されている(学会誌参照)が、実際には各専門部会で選挙規定をきめてから実施することになる。それまでは暫定的に専門部会毎に新しい評議員を定める。常任委員会の提案によれば現行の各分科会の評議員、理事、監査など全員に留任していただくようにお願いいたしました後に新評議員をえらぶ。ただし評議員は会費が二六〇〇〇円と負担増となる。

獣医学会改組はじまる 基礎獣医学系専門部会の 評議員選出と理事の選挙予定

第14回獣医学学会の臨時総会(昨年9月30日、札幌)で決定されたように、従来の分科会は専門部会として四群に大別されることになった。全会員にどの専門部会に所属するかを問合わせ集計した結果、基礎獣医学系専門部会を希望する会員は学生会員(109名)を含め別表のように一九三名であった。会員数に応じて算出され

専門部会	(会員数)	(評議員定数)	(理事定員)	(現代議員)
基礎獣医学系	1193	70	4	32
病態獣医学系	991	58	4	28
予防獣医学系	1220	72	4	44
臨床獣医学系	1160	68	4	36

現在には施行細則第7項(平成4年12月4日制定)に基づき常任委員会(平成5年4月

28日)が委嘱した会員が部会長をつとめ、今回の学会での評議会への準備や前記の理事の選挙へ向けての準備を行うことになってい

- 基礎獣医学系 牧田 登之
- 病態獣医学系 板垣 博
- 予防獣医学系 清水悠紀臣
- 臨床獣医学系 中原 達夫

理事は各専門部会で4名ずつ選出される他に、会長が4名を選任するので合計20名になる。これらの理事は評議員の数の中に加えたいとするか、加えらるるか議論されている。

いずれにしても試行段階である。解剖分科会員で基礎獣医学系以外に登録している人もいる。何よりも、どの専門部会にも属さないと回答している会員が全体で41名にのぼる。この方々の取扱い方も未決定である。

⑤ 現在の解剖分科会代議員(現理事・監事・評議員)は以下の会員で構成されている。(敬称略)

- 杉村 誠 江口 保暢
- 牧田 登之 林 良博
- 阿部 光雄 岡野 真臣
- 大塚 潤一 醍醐 正之
- 谷口 和之 有嶋 和義
- 上原 正人

(各専門部会別登録会員数)

	(解剖)	(生理-病)	(病理)	(寄生虫)	(微生物)	(家畜病)	(公衆衛生)	(臨床)	(西属)	計
基礎獣医学系	283	551	39	33	131	14	26	42	42	1,193
病態獣医学系	10	22	707	124	81	14	7	8	9	991
予防獣医学系	2	20	10	49	725	117	246	9	23	1,220
臨床獣医学系	16	30	17	27	54	14	6	196	751	1,160
その他										41
計	311	623	773	233	991	159	285	255	825	4,605

解剖分科会 研究奨励賞継続予定

第一回(大上美徳 山口大・大 追誠一郎 東大)と第二回(斎藤 清美 岩手大・金井正美 東大)

のあと、北大(第14回獣医学会)ではボスターセッションのみであったことと、日獣(第15回獣医学会)では獣医学会の改組に伴う新しい学会賞の行方が未定であるために解剖分科会独自の研究奨励賞を見送ってきた。しかし今回は旧方式の学会運営であるので第三回として分科会の評議員の投票による選考を行い2名の新人に奨励賞を贈る予定である。学部・大学院を問わず発表に一層工夫をしていただきたい。

ミラー「犬の解剖学」改訂三版発行される

ミラーの「犬の解剖学」(MILLERS ANATOMY OF THE DOG)は一九六四年に第一版が、一九七九年には第二版が出版され、現在我々が用いているのはこの14年前の第二版である。この度、やはりH・E・E VANSによる第三版が Saunders社から発刊された。新しい図版が加えられた他、これまでの図も一部修正したり、用語が書き換えられている。新しい執筆者によって書き加えられた章や、全く新しい章もあるので、早晩日本語版も改められることになると思われる。

東京大学家畜解剖学講座 開設百周年記念会(9月1日)

一八九三年(明治26年)九月十一日に開設されたという東京大学家畜解剖学講座の100周年記念会が東大山上会館で開催された。麻布大学なども一九九〇年に百周年記念を祝っておられるので、このような行事をする大学が次々と出て来ることが特記すべきことかどうかはともかく、一世紀におよぶ教室の歴史が我が国の家畜解剖学の歩みに刻まれている部分をふりかえって見るの



つさあい教授と東大博林の司会(左から)つさあい教授、東大博林、つさあい教授、右端は野建太郎先生。

の諸君が参加した。参加者の中には次のような先輩諸氏の顔がみられ、当然のことながら増井先生、加藤先生、近藤先生のことなど懐古談に花が咲いていた。

村井秀夫、野野建太郎、保田幹男、木藤祐順、望月公子、大塚潤一、江口保暢、山内昭二、西田隆雄、野沢 謙、柏原孝夫、塩田俊朗、加納康彦、上原伸美、伊東信夫、松山 茂

獣医発生学用語集 今年度末までに刊行予定

江口保暢先生を委員長とし谷口和之、橋本善春、森川嘉夫、山本雅子の諸先生方を委員とする委員会にお願ひしてあった獣医発生学用語集の原稿が第一稿は6月に、最終稿は8月に出来上った。これは国際獣医発生学語委員会(委員長W・O・Sack教授、委員は江口先生他九名)がようやく昨年まとめたNOMINA EMBRYOLOGICA VEERINARIAの日本語版である。Sack教授によれば、国際版の方は明年のWAVA(チューリッヒ)で配布予定なので、日本語版が先

この発生学用語集の場合は、

前回の組織用語集が数年前に原稿が殆ど完成していたものをあらためて印刷することになったのと異なり、最初からとりかかっていたので江口先生他各委員には大変忙しい思いをしていただくことになった。

こういうものはこんなに慌てて出すものではないとの御批判もあろうが、日本解剖学会、先天異常学会などによる用語集が出ており、解剖学雑誌にもその補遺・修正が出されていることを考えると、慎重すぎて時期を逸するよりはという判断を優先して江口先生の御判断で統一していただいた用語もある。所詮学術用語というものはある時点でこうきめるしかないのではなかろうか。

委員会委員の各先生方にあらためてお礼を申し上げる。また財政的にこれを可能としたのは日本中央競馬会の援助であり、技術的には学窓社(社長田中敏昌氏)のお世話になった。近い将来には解剖学用語と組織学用語も併わせて本書と共に合本として発刊することになろう。

⑪ 前回の組織学用語と同様、解剖学分科会員には無料で次の学会場(日本都市センター)で配布する。

新入会員紹介

安藤 光一
九州産業大学教養部生物学科
稲葉 智之
資生堂安全性分析センター

山口 高弘

東北大農学部機能形態学
学生会員としては以下の10名が新しく解剖学分科会に加入された。

小細 浩身

大阪府立大学農学部

鈴木 匡弘

名古屋大学大学院

高柳 雅明

名古屋大学大学院

中島 崇行

岩手大学農学部

廣田 泰

東京大学農学部

本道 栄一

東京大学農学部

前原 智

宮崎大学農学部

村林千賀子

岩手大学農学部

吉澤 未来

大阪府立大学農学部

渡辺 幸孝

麻布大学獣医学部

(アイウエオ順、敬称略)

以上の結果8月1日現在の解剖学分科会の会員数は正会員が国内21名、海外4名、学生会員46名の合計31名である。昨年8月3日では28名(ニューズレターの一九九二年九月号参照)であった。

分科会要覧(一九九三年)

学会場で配布

解剖学分科会の会員名簿は昨年同様のスタイルで発行した。学会場のスライド受付のところで会員に配布する。学生会員にも無料配布。郵送料節約のため、学会に欠席した会員の分も研究室単位で持ち帰っていたただけとありがたい。

なお例年通りこの名簿作製は東大畜産部教室にお願ひしたことを記して謝意としたい。学会のコンピュータ入力された情報を基にしているが、思わぬ脱落やミスがあるかもしれない。そのような場合はどうかお許し願ひたい。自分のはもとより知った人の記録の誤りに気付いた方は至急林良博幹事(東大)へ御連絡下さい。

明年度以降の名簿のスタイルなどについての御提言も歓迎。

会員消息

○西中川 駿先生

鹿児島大学の西中川駿先生は三月に退官された大塚園一先生の後を継がれて、六月一日から教授に就任された。

○月瀬 東先生

日本大学の月瀬東先生が教授に昇任された。

○佐々木文彦先生

大阪府大は山内昭二先生が御退官後教授選考がつづいて二月に助教教授だった佐々木先生の御昇任が決まった。

○上原 正人教授帰国

エール大学に留学中だった鳥取大学の正人教授が帰国され、授業をはじめられた。

○木村 順平先生帰国

ウイスコンシン大学に留学中であつた日大の木村順平講師は学会直前に帰国し、今回の学会で発表される。

○AAVA(アメリカ獣医解剖学会)長がBRATTTON教授(テキサスA&M大学の解剖学と公衆衛生の教授)になられた。

○藤村 久子会員

実医研より新技術事業団へ7月1日付転載。

編集後記

通算4号目のNEWS LETTERを何とか学会前に出せることになった。この学会は従来の方式による地方での秋の学会としては最後になるかもしれない。シンポジウム方式とかもつとボクスターションを拡大するなど変革がはかられる様子だから。

分科会自体も当分は名称の変更などを見送るところが多いようなので解剖学分科会もそのままにしておくことにするが、評議員の選出とそれを基にした理事の選出が専門部会単位に変わったので、いずれ明年4月以降に影響が出て来ると思われる。しかし個々の会員にとっては学会での報告と獣医学雑誌への論文発表が確保されれば、あとは二義的なことに過ぎない。

内部規約の改変に使うエネルギーをもっと対社会的な獣医界の声の結果、料研費の問題などに向ける時点に来たと思う。

なお前号から連載の北大橋本先生のドイフ留学便りは本号に収録できなくなったが、またまた「次号に続く」の扱いにさせていただきます。橋本先生にお詫びします。